

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2572300081
法人名	三雲ケアサービス株式会社
事業所名	グループホーム三雲
所在地	〒520-3221 滋賀県湖南市三雲ナガレ69番地 (電話) 0748-72-3004

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年10月7日	評価確定日	平成21年11月5日

【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	6.85 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷金	有() 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 300,000 円	有りの場合 償却の有無	有() 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	300 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9 月 20 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生田病院、芦田歯科医院、小川診療所
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR三雲駅に近く、桜並木の続く野洲川に面した住宅地の中にある当該ホームは、以前は会社の寮として使われていた民家改修型の建物です。玄関を入ると、利用者の散歩用の帽子が掛けられており、さりげなく置かれた姿見や風景写真が出迎えてくれます。職員は理念でもある利用者一人ひとりの思いに、同じように応えられるように日々努力されています。活気に満ちたリビングでは皆で食事の準備をしたり、利用者が作ったカルタを賑やかに取り合っている光景が日常的にみられます。職員も交え、個々のペースは違っても互いを補い合っている生活している様子が伺えます。また職員は利用者が家族と共に過ごせるように、外出や一時帰宅の支援を行う等、利用者と共に家族とのつながりを大切に思い支援されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題であったホーム内の研修として、毎月の職員会議の際に、看護師を講師として医療に対する勉強会を行う等、改善に努めています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目 ②	今回の自己評価は白紙の自己評価票を一人ひとりに配り、項目を分担して記入してもらい作成されており、職員全員が協力して取り組まれています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目 ③	運営推進会議は3ヶ月に一度、利用者、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者等が参加して開催されています。会議ではホームからの様々な取り組みについて報告がなされる他、苦情や相談、地域との関係の持ち方について話し合わせ、運営に活かされています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目 ④	玄関に意見箱を設置したり、外部の苦情窓口を書面に掲載し家族が苦情や要望を言いやすい環境を整えています。ホームでは家族参加の食事会を催したり、行事の際に家族を招待し、直接話をする機会を確保しています。また出された意見は職員会議で検討され、サービスの向上に活かされています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目 ④	自治会に加入し、回覧板等から情報を得て、地域の夏祭りなどの行事に参加しています。また近隣の方から取れたての野菜や花を頂くこともあります。地域の中学生の体験学習を毎年受け入れ、その後もホームの行事に参加してもらったり、中学生の個人的な相談に乗るなど交流が続いています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心生き活き、心たのしく、その人らしく」を事業所の理念とし、地域においてもその人らしく暮らせるための支援を心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毛筆の得意な利用者に清書してもらい、額に入れて玄関やリビング、2階の廊下に掲示されている。また管理者は理念に基づき、利用者の生活歴を活かした本人本位のケアを実践するよう、職員に常に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板等から情報を得て、地域の夏祭りなどの行事に参加している。また近隣の方から取れたての野菜や花を頂くこともある。地域の中学生の体験学習を毎年受け入れ、その後もホームの行事に参加してもらったり、中学生の個人的な相談に乗るなどの交流が続いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題であったホーム内の研修として、毎月の職員会議の際に、看護師を講師にして医療に対する勉強会を行う等、改善に努めている。また今回の自己評価は白紙の自己評価票を一人ひとりに配り、項目を分担して記入してもらい作りあげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に一度、利用者、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者等が参加して開催されている。会議ではホームからの様々な取り組みについて報告がなされる他、苦情や相談、地域との関係の持ち方について話し合わせ、運営に活かされている。	○	運営推進会議は地域と連携を図り、ホームの取り組みや考えを知ってもらうためにも、2カ月に一度の開催が望まれる。行事と一緒に開催したり、避難訓練や講習会として地域をも含めて開催する等、さまざまな方法で取り組まれてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設以来、市担当者には積極的に働きかけ、何でも相談し合える関係性を構築されている。担当者の交代もあるが、その都度相談や情報を得るために連絡を密に取り、関係を作り上げている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、毎月個々に担当者が写真や絵入りのお便りを作成し郵送している。金銭管理は預かり金とし、収支報告書と領収書をお便りと一緒に郵送し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、外部の苦情窓口を書面に掲載し家族が苦情や要望を言いやすい環境を整えている。ホームでは家族参加の食事を催したり、行事の際に家族を招待し、直接話をする機会を確保している。また出された意見は職員会議で検討され、サービスの向上に活かされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はほとんどなく、管理者は職員の様子を見ながら声をかけたり、他の職員に聞いてもらったりして職員に応じた対応を心がけている。またホーム外でも職員同士の食事をしてストレスの軽減に努めている。職員が変わる場合も、利用者には不安を与えないことを一番に、他の職員が間に入り対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	淡海グループホーム協議会主催の研修に随時参加している。研修後は毎月の職員会議の際に、他の職員に対し伝達研修を行っている。またホーム内でも、毎月看護師が講師となり医療の勉強会を行い、スキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淡海グループホーム協議会に加入し、管理者と職員向けの交流会に参加して情報収集や意見交換を行っている。今後は協議会が主催して交換研修を予定しており、ホームからの参加も検討されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームでは本人が納得した上での入所になるよう、必ず本人に見学に来てもらうようお願いしている。また1週間を目途に体験入居をしてもらい、他の利用者や職員と馴染みの関係を築いてからのスムーズな入居に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	タケノコや冬瓜など、近隣の方から頂いた野菜の料理の仕方や生活の知恵など、共に過ごす中で、多くのことを利用者から教わっている。また皆で一緒に行う調理の下ごしらえやカルタ取りの際には、怒ったり笑ったり歌ったりと、賑やかな風景が見えるリビングとなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々変化する利用者の思いは、コミュニケーションを取る中で把握している。また言葉に表せない利用者には、仕草や表情から理解するようにしている。ホームには決まったアセスメントシートが無く、利用者や家族から聞き取った内容を書きだしたものとなっている。	○	利用者、の思いや希望からニーズを探り、ケアマネジメントを行うためにも、アセスメントは大切である。職員間での共有を図るためにもアセスメントシートを様式化されることが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望は、大切に受け止め、ケアプランの希望欄にそのままの言葉として記入されている。それをもとに職員が全員参加するカンファレンスを開き、職員や看護師、時には協力医の意見を聞き、様々な意見が反映されたケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3ヶ月毎に職員が全員参加するカンファレンスを開催し、モニタリング、評価を行い更新されている。状態に変化がある場合はその都度、カンファレンスを開きケアプランを変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望によりほとんどの通院介助を職員が行っている。利用者の希望に沿っての嗜好品や日用品の買物、写生をするための散歩等の支援を行っている。また家族との関係を大切にするための支援として、家族との外出や帰宅するための同行を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、利用者や家族に希望を聞いてかかりつけ医を決めており、以前のかかりつけ医を継続している利用者もいる。月に一度、協力医の往診を受け、また看護師の常駐により日々の健康管理を行っている。歯科医は必要時に受診している。協力医とは緊急時や夜間の連絡も可能で、安心の医療体制が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについてのホームの指針を入居の際に家族に説明し、文書で同意を得ている。ホームとしては家族の希望があれば、看取りを行う意思があり、職員も方針を共有している。時期が来れば、家族や医師、看護師、職員等で話し合い、本人にとっての最良の方法を検討し、対処している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の呼び方については家族の了承を得て、その人に合わせた声かけをしている。また職員の不用意な発言が見られた場合はその都度注意し、職員会議でも言葉かけについて話し合われている。個人のファイルは鍵付きの書庫に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は理念でもある、その人らしさを大切にした支援を心がけ、利用者のペースを妨げることなく、一人ひとりの要望に応じている。ホームでは皆で一緒に行うことが多いが、無理強いすることはなく、互いを助け合いながら生活している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者に希望を聞き、冷蔵庫を見ながら決めている。ほとんどの利用者が職員と一緒に食事の準備や片付けを行っており、リビングからは、にぎやかな笑い声や鼻歌が聞こえて来る。また食事も利用者と職員と一緒に、楽しそうに会話しながら頂いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能で、時間帯も利用者の希望に沿って、朝から夕方まで好きな時間に入浴してもらっている。看護師の意見で冬場は保温のために入浴剤を使用している。また拒否が見られる利用者には、職員が交替したり、タイミングを変えて入浴を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を大切に、ゴミ捨てやモップかけ、茶碗拭き、畑づくり等の役割りを担ってもらっている。またホームでは皆で一緒にすることが多く、利用者のハーモニカに合わせて他の利用者が歌ったり、利用者が絵と文章を考え作ったかるたを皆で楽しむことが日課となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近隣の散歩や畑仕事に出かけている。また、利用者の希望により、嗜好品や日用品の買物に出かけている。また、事前に働きかけ家族の来訪時には、利用者と家族と一緒に外出や外食に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は門扉や玄関は施錠していない。利用者が外に出たそうにしている場合は、職員が利用者の後をついて行き、散歩してもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立ち会いのもと、消防訓練や避難訓練を行っており、その都度、運営推進会議でも報告している。自動通報装置を設置し、何かあればすぐ駆けつけてくれる体制にあるが、近隣の協力は得られていないのが現状である。	○	地域の一員として地域の防災訓練にホームとして参加したり、ホームの避難訓練の際に、地域の方に声をかけ、消火器の訓練やAEDの使い方等の講習等を一緒にされたいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量と水分摂取量の1日の総量を記録に残している。糖尿病の利用者には常に医師と相談しながら食事の提供を行っている。職員は五感刺激のためにも、食事の際の見た目を大切に、なるべく原形に近い形で提供しよう心がけている。栄養バランスについては、看護師にメニューを見てもらい、アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	会社の寮として使われていた民家を改修した建物で、玄関を入ると、大きな姿見が置かれ風景写真が飾られている。リビングは明るく、いくつかあるテーブルも大きさや配置に工夫され、それぞれの居場所を確保している。畳コーナーやリビング、玄関にソファを配置し、利用者は好きな場所で過ごすことが出来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は1階に3室、2階に6室設置し、畳の部屋に押し入れとベッドが用意され、冬場はカーベットを敷いている利用者もいる。管理者は入居にあたって、使い慣れたものを持参頂くようお願いしており、利用者は自宅からタンスや鏡台、仏壇、本、家族の写真等を持参され、居心地良く過ごされている。		